

令和2年度がけ等実態調査結果の概要について

区では、区内の高さ2m以上のがけまたは擁壁（「がけ等」という。）を対象として、平成22年度・23年度に実態調査（前回調査という。）を行っている。

このがけ等実態調査結果に基づき、所有者に対して、改善の働きかけを行ってきた。前回の調査以降、東京都は、区内97か所の土砂災害警戒区域の指定を行っており、この区域にあるがけや同規模のがけ等について令和元年度、令和2年度にかけて改めて調査を行った。今回は、令和2年度分の調査結果の概要を報告する。

1 調査期間

令和2年10月27日～令和3年3月5日

2 調査方法

外観目視調査により、A～Cランクの3段階に評価

（Aランク：外観上、当面の危険性はないと思われる、Bランク：変形、劣化等が見られるので経過観察が必要、Cランク：変形、劣化等が著しく、改善の検討が必要）

※この評価は、外観目視調査であり、「安全性」や「危険性」を断定するものではない。

3 調査内容

調査事項	調査票記載内容
基本事項	がけ等の所在地、所有者
計測調査	がけ等の規模（高さ、長さ、勾配等）
外観目視調査	がけ等の設置状況及び分類、変形・劣化状況等 近接建物状況（位置、構造、階数、用途等）
評価	調査結果に基づく評価（A～Cの3段階）

4 調査箇所

前回調査（平成22・23年度）を行った区内のがけ等（6,534箇所）のうち、148箇所

- ① 土砂災害警戒区域外にあり、前回の調査がBランクのがけ等（高さが5m以上） 140箇所
- ② ①の周囲のがけ等（Aランク 2箇所、Bランク 3箇所、Cランク 3箇所） 8箇所

5 調査結果

（1）令和2年度の調査結果の概要

ランク	箇所	割合(%)
Aランク	7	5
Bランク	121	82
Cランク	17	11
開発等による解消	3	2
合計	148	100

（2）前回調査からの変化

状況	箇所	割合(%)
悪化「B→C」	14	10
変化なし「A→A、B→B、C→C」	126	85
向上「B→A」	5	5
開発等による解消	3	
合計	148	100

（3）状況変化の分析

総合評価の変化	H22・H23時点での分類		変化の主な要因
	がけのみ	擁壁のみ	
悪化	がけのみ	0	14 ・クラックの発生・拡大、ずれの拡大 ・材質の劣化 ・クラックの発生・拡大 ・植栽等の影響による傾き
	擁壁のみ	10	
	がけ+擁壁	4	
向上	がけのみ	0	5 ・鉄筋コンクリート造擁壁等への建替え ・自然斜面に擁壁を築造
	擁壁のみ	1	
	がけ+擁壁	4	
開発等による解消	がけのみ	1	3 ・戸建て建替え 2 ・マンション新築 1
	擁壁のみ	0	
	がけ+擁壁	2	
変化なし	がけのみ	22	126
	擁壁のみ	43	
	がけ+擁壁	61	
合計	148	148	

6 調査後の取組み

今回の調査結果を所有者に通知し、がけ等の日常管理の重要性を啓発するとともに、BランクやCランクのがけ等の所有者に対しては、助成制度を活用した改修の働きかけを行う。

また、前回の調査結果より総合評価が悪化している箇所のがけ等の所有者には戸別訪問などの取組みを行う。